

USHIO

株主の
皆さまへ

PRISM

第53期 中間報告書 プリズム

[2015年4月1日～2015年9月30日] 2015年12月発行



CONTENTS

USHIO NOW!	P 2
社長からのメッセージ.....	P 4
事業の概況.....	P 6
決算の状況.....	P 8
ここにもウシオ電機.....	P10
社会とともに.....	P12
株主さまとともに.....	P14

USHIO NOW!

ウシオ電機の今

◆ウシオとは

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業」へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェアNo.1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

設立

1964年3月

資本金

19,556 百万円

従業員数 (2015年9月30日現在)

合計 5,764人

- ウシオ電機本体 1,749人
- 国内グループ計 853人
- 海外グループ計 3,162人

業績ハイライト (2015年4月1日~2015年9月30日)

売上高

886 億円

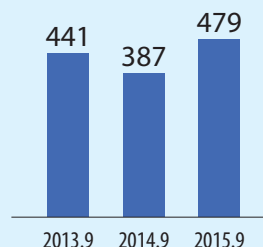
営業利益

65 億円

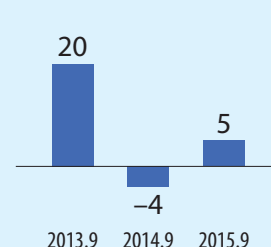
【装置事業】

日本での円安ドル高の進行による為替影響に加え、主に映像画像事業の販売拡大により増収増益となりました。

売上高※ (億円)



セグメント利益 (億円)

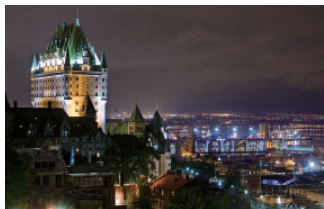
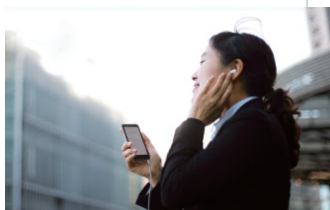


◆ ウシオのマーケット

最先端技術に
ウシオの「光」

Electronics

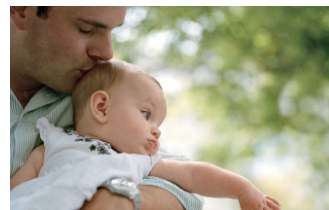
半導体、液晶パネル、精密機器、
電子部品、光化学、印刷など



ウシオのマーケット

Life Science

医療、自然環境、農業、海洋／漁業、
セキュリティ、エネルギー、宇宙開発など



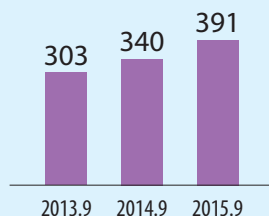
Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、バーチャルリアリ
ティ（VR）／シミュレーション、監視／
制御用映像表示システム、プロジェクター用
光源、一般／商業施設用照明、景観照明・
演出、ステージ／スタジオ照明・演出、
オフィス・ドキュメント

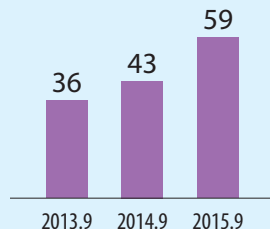
[光源事業]

為替影響や固体光源事業の拡大により増収増益となりました。

売上高※(億円)



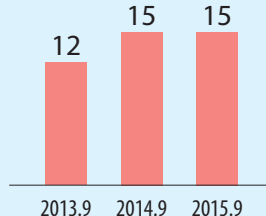
セグメント利益(億円)



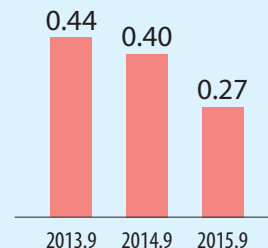
[その他]

金型検査装置などの販売が低調に推移したため、減収減益となりました。

売上高※(億円)



セグメント利益(億円)



※外部顧客への売上高を記載しています。

社長からのメッセージ

光のイノベーションを通じて、豊かな社会の実現とウシオの持続的成長を目指します。



代表取締役社長・CEO 浜島 健爾

1 2015年9月期の業績と通期の見通し

2015年9月期(上期)は、売上が前年同期比19.2%増の886億1千6百万円と、半期業績としては過去最高となりました。また営業利益は同63.1%増の65億4千万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同21.7%増の54億6千6百万円となりました。セグメント別に見ても、装置事業、光源事業ともに増収増益となりました。

その主な要因は、装置事業では、映像装置分野においての円安効果に加え、レーザープロジェクターの販売や日本国内での映画館の新築や工事が増加したこと、光学装置分野においては主にハイエンドのスマートフォン需要に支えられ各種デバイス向け投影露光装置が大幅増収したことが挙げられます。また光源事業では、固体光源分野でウシオオプトセミコンダクターとマックスレイを新規連結したことにより、半導体レーザー事業およびLED事業が拡大したことが増収に寄与しました。

下期においては、デジタルシネマプロジェクター、一般映像用プロジェクター「Boxer(ボクサー)」の販売拡大など、装置事業のさらなる売上増加を見込んでおり、2016年3月期(通期)では、売上高1,800億円、営業利益130億円、当期純利益120億円と期初計画通りに推移する見通しです。

2 中期経営計画の進捗と今後の展望

現在、ウシオは2018年3月期を最終年度とする中期経営計画に取り組んでいます。売上高2,200億円、営業利益180億円(営業利益率8.2%)、ROE8.0%以上を最終年度の目標に掲げ、事業体質の改善による「事業収益の拡大」、金融資産の事業資産化による「資本効率の向上」、「株主還元強化」の3つを重点施策として取り組んでいます。

この目標を達成するカギは「イノベーション」にあると考えています。自由な発想をもってイノベーションを推進することで、新たな価値やお客さまの喜びを生み出すことができれば、掲げた数値目標はおのずと達成できるものと考えています。

その取り組みはすでに動き出しており、2015年5月、ウシオはコロンビア大学と契約を締結。私たちが持つエキシマランプの技術やノウハウを衛生・医療分野へ応用することが可能となりました。病院や空港で使用できる、安全で確実な殺菌用システムの事業化を目指しています。(詳しくは10ページをご覧ください。)

また、デザイン性の高い照明器具の設計、開発に定評のあるマックスレイを同年4月に子会社化したことで、付加価値の高いLED照明を提供していきます。

このように、ソリューションビジネスへの転換、新規市場への進出およびM&A投資の拡大を積極的に進めることで持続的成長と収益拡大を図っていきます。

3 持続的成長のために経営基盤を強化する

中期経営計画の推進もさることながら、ウシオの持続的成長のためには、ステークホルダーの皆さまとの良好な関係の維持・構築に欠かせない経営基盤の維持・強化が必要です。具体的には、経営の透明性・効率性を確保するためのコーポレート・ガバナンスの強化や、ウシオの社会的価値・経済的価値の創出を支える人材の育成、人権・ダイバーシティへの配慮、研究開発力や商品開発力の強化、環境への配慮などです。これらは「CSR行動計画」として課題と行動計画を設定し、それぞれ事業部やグループ会社の戦略へ落とし込みをすることで、全社が一丸となって取り組んでいます。

今後も、持続可能な社会の構築に向けて事業を発展させ、事業基盤の強化に取り組むウシオの取り組みに、どうぞご期待ください。

事業の概況

装置事業



映像装置

- デジタルシネマプロジェクター (DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム

光学装置

- 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置 (露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- 紫外線皮膚治療器など医療機器
- 半導体検査・開発用EUV光源装置

基本戦略

映像装置

〈目標〉

トータルソリューションビジネスの拡大
一般映像：年率10%の成長を目指す
シネマ：収益性維持から再飛躍へ

〈施策〉

一般映像：成長分野での投資機会増加、さらなるグローバル展開
シネマ：ソリューションビジネス拡大、更新需要の確実な取り込み

光学装置

〈目標〉

経常的な黒字化を目指した構造改革

〈施策〉

グループ戦略の見直し (アドテックエンジニアリングとの関係強化)

光源事業



放電ランプ/LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用および産業用光源

ハロゲンランプ

- OA機器
- 照明用 (商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)
- 産業用ヒーターランプ

基本戦略

〈目標〉

「持続的成長」と「収益性の維持」

〈施策〉

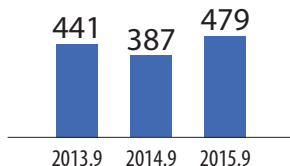
ソリューションビジネスを展開
新規分野：成長市場へ積極的に参入
既存分野：シェア維持

当第2四半期の業績

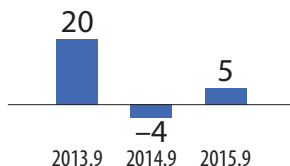
映像装置分野は、シネマ用レーザープロジェクターと一般映像用新型プロジェクター「Boxer」が牽引し、増収しました。光学装置分野では、キュア装置とローエンド露光装置は減収となりましたが、各種デバイス向け投影露光装置が好調に推移し、光学装置全体ではほぼ横ばいとなりました。

その結果、売上高は前年同期比23.6%増の479億4千2百万円、セグメント利益は黒字化し、5億8百万円となりました。なお、外部顧客への売上高は前年同期比23.6%増の479億1千5百万円となりました。

売上高* (億円)



セグメント利益 (億円)

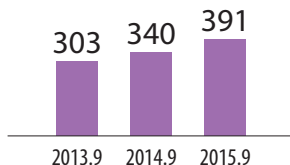


当第2四半期の業績

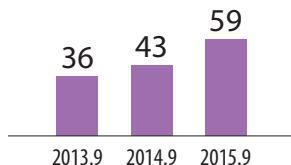
放電ランプのうち、シネマプロジェクター用クセノンランプは、中国などの新興国を中心にデジタルシネマプロジェクターの総設置台数が増加し続けていることから、売上は増加しました。固体光源はM&Aにより半導体レーザー事業およびLED事業を拡大したことから、売上が増加しました。

その結果、売上高は前年同期比15.1%増の397億1千9百万円、セグメント利益は前年同期比37.0%増の59億7千8百万円となりました。なお、外部顧客への売上高は前年同期比15.0%増の391億7千5百万円となりました。

売上高* (億円)



セグメント利益 (億円)



今後の取り組み

映像装置では、中国をはじめとする新興国でデジタルシネマプロジェクターの総設置台数が増加しており、これらを確実に取り込むことで、下期は上期比で30%の販売台数の増加を見込んでいます。また、「Boxer」の販売を推進し、映像装置全体では上期比で増収の見込みです。

光学装置では、各種デバイス向け投影露光装置を中心に上期を上回る出荷を見込んでいます。光配向装置は、日本やアジアの液晶パネルメーカーからの引き合いがあり、販売台数は増加する見通しです。

	2016年3月期 第2四半期累計		2016年3月期 通期(計画)
	進捗率		
映像装置	347	46.3%	750
光学装置	120	49.2%	245
その他	11	56.7%	20

今後の取り組み

放電ランプでは、固体光源は微増収を想定していますが、そのほかは横ばいで推移するものと思われれます。

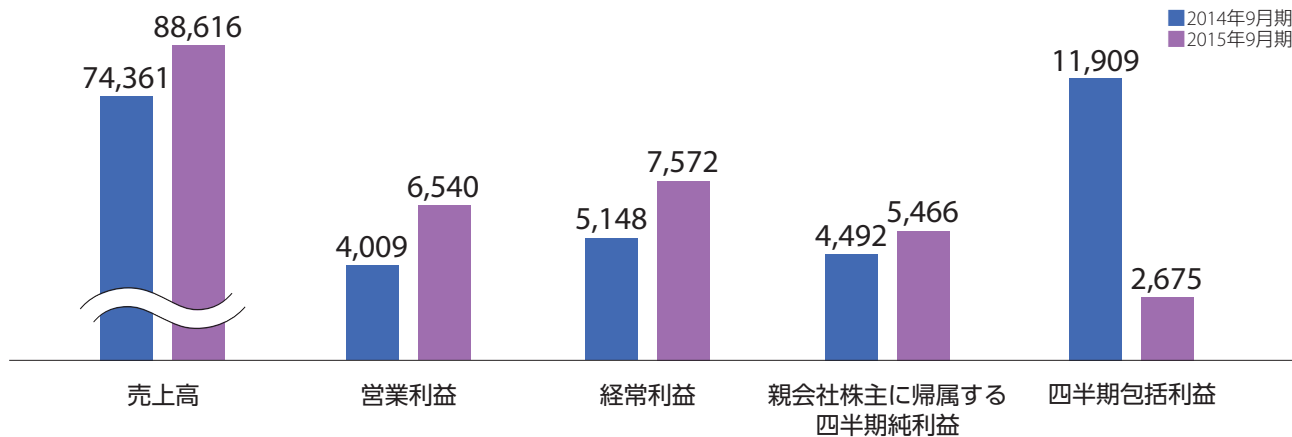
ハロゲンランプにつきましては、引き続きOA用途のランプがセットメーカーの底堅い需要に支えられ、安定的に推移する見込みです。

	2016年3月期 第2四半期累計		2016年3月期 通期(計画)
	進捗率		
放電ランプ	321	51.8%	620
ハロゲンランプ	70	50.3%	140

*外部顧客への売上高を記載しています。

決算の状況

◆ 要約連結損益計算書・包括利益計算書 (百万円)



■ 装置事業での映像画像事業の販売拡大、光源事業での固体光源の拡大、両事業での為替の影響により、**売上高**は前年同期比19.2%増の886億1千6百万円、**営業利益**は、前年同期比63.1%増の65億4千万円となりました。

■ 営業利益の増益により、**経常利益**は前年同期比47.1%増の75億7千2百万円、**親会社株主に帰属する四半期純利益**は前年同期比21.7%増の54億6千6百万円となりました。

■ **資産合計**は、前期末に比べ33億5千4百万円減少し、2,911億8千7百万円となりました。主な減少要因は、売掛金等の回収による「受取手形及び売掛金」の減少および公社債投資信託等の売却による「有価証券」の減少です。

■ **負債**は、前期末に比べ5千8百万円増加し、758億7千7百万円となりました。主な増加要因は、運転資金需要による「短期借入金」の増加です。

■ **純資産**は、前期末に比べ34億1千2百万円減少し、2,153億1千万円となりました。主な減少要因は、為替影響による「為替換算調整勘定」の減少、自己株式の取得による「自己株式」の増加です。

■ **営業活動によるキャッシュ・フロー**は、58億9千8百万円の収入（前年同期は32億1千8百万円の収入）となりました。

■ **投資活動によるキャッシュ・フロー**は、8億6百万円の支出（前年同期は1千3百万円の収入）となりました。

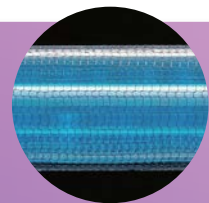
■ **財務活動によるキャッシュ・フロー**は、53億8千8百万円の支出（前年同期は37億4百万円の支出）となりました。

ここにもウシオ電機

医療現場で輝く
ウシオの技術

手術部位の院内感染防止に エキシマランプを！

～細菌感染を防ぐための、エキシマランプの用途開発を推進～



ウシオはコロンビア大学と連携し、医療現場での細菌感染を防ぐためのエキシマランプの用途開発を推進。2017年ごろの製品化に向けて取り組みを開始しました。



エキシマランプ

深刻化する院内感染の問題に解決の道をひらいた コロンビア大学

手術部位の院内感染は重大な問題であり、米国だけでも毎年8,000人以上が死亡し、毎年30～100億米ドル程度の医療費が使用されていると言われています。この問題に解決の道をひらいたのが、米国コロンビア大学放射線研究センター長のデイビッド・ブレナー博士とそのチームです。同チームは、エキシマランプによる特定波長帯域の紫

外線などを使用する狭帯域スペクトル紫外線技術を用いて、細胞や組織を損傷せずに細菌、ウイルスを死滅させる殺菌システムを開発しました。

ウシオとエキシマランプの深い関係

このエキシマランプ、世界で最も早く開発・実用化したのがウシオです。半導体や液晶パネルの製造プロセスでの光洗浄などの用途で展開してきたのに加え、近年では水殺菌や脱硝などへの利用に向け、アプリケーションの拡大に取り組んできました。

ウシオの知見を活かし、製品化を急ぐ

エキシマランプを使った殺菌システムを開発したコロンビア大学にとって、次なる課題はその後の製品化、事業化にありました。そうしたなか、エキシマランプに関するウシオの知見と事業化の実績が高く評価され、ウシオとは狭帯域スペクトル紫外線技術の独占ライセンス契約と研究委託契約を締結するに至りました。

これを受け、まずは2015年冬から日本のほか世界数カ所で臨床研究を開始。2017年ごろの製品化を目指しています。またその後は衛生・医療分野にも進出し、エキシマランプによる安全で確実な殺菌用システムの事業化を目指します。ウシオの技術が世界中の院内感染の問題解決に役立つ日も遠くありません。

コロンビア大学

約260年の歴史を持つ米国ニューヨーク州の私立大学。世界屈指の名門大学としてノーベル賞受賞者を多数輩出しており、世界中から多くの優秀な研究者、留学生が集まっている。各国の大統領・首相も輩出しており、米国第44代大統領バラック・オバマ氏も卒業生の一人。

研究者の
悩みを解決する
ウシオ電機

低価格で高感度な パーソナル小型吸光度計を発売

～小型吸光度計PiCOSCOPE®の受注開始～



このほどウシオでは、独自開発の光学モジュールを搭載した、持ち運び可能でコンパクトかつ低価格な吸光度計を開発しました。

吸光度計は高額で「厄介なシロモノ」?

吸光度計は、特定の波長の光溶液試料に光を当てた際に通過した光量を測定し、試料が吸収した光(吸光度)を分析する装置で、定量分析によく利用されています。大学や研究機関などの吸光度計は移動できない据置型で、高額なものが多く、共用設備となっています。このため測定のたびに順番待ちをして、測定作業やデータ処理作業も煩雑になり、研究者は多くの工数を割っていました。

研究者の悩みを解決したウシオの“PiCOSCOPE®”

ウシオは、こうした研究者の悩みの解決にも貢献しています。従来の産業用に開発された要素技術を組み合わせて吸光度計に転用し、独自技術によって測定機器という新しい分野に挑戦しました。そ

「PiCOSCOPE® 担当者の声」

PiCOSCOPE®は、おもに「環境」や「衛生」といった分野に「新しい提案をすることで、世の中に貢献したい」という想いから生まれました。ウシオ独自の光技術があったからこそ、どこにでも持ち運びができる、今までにないコンパクトサイズを実現し、食品工場の衛生管理や工場排水の水質管理などの現場で、効率よく定量データのモニタリングをすることが可能になりました。PiCOSCOPE®に留まらず、これからも「安心と安全の見える化」を促進することで、世界的な環境・衛生問題に貢献していきたいと考えています。



して誕生したのが小型吸光度計PiCOSCOPE®です。手のひらサイズの小型装置ながら、ng/mLレベルの高感度測定を実現した上、汎用チューブ(PCRチューブ)のまま測定でき、ピペットなどを用いる作業を不要にしました。さらに、通信機能を搭載することでスマートフォンやタブレット端末で操作・表示することも可能にしています。

PiCOSCOPE®がもたらす無限の可能性

PiCOSCOPE®はコンパクトかつ高感度、低価格で導入しやすいため、パーソナル測定器として活用でき、測定者の時間や負担を軽減し、さまざまな分野への応用が期待できます。すでに、タイのチェンマイ大学ではPiCOSCOPE®を用いた環境測定アプリケーション開発のグループが誕生するなど、今後の普及拡大の可能性が高まっています。



社会とともに



環境トピックス

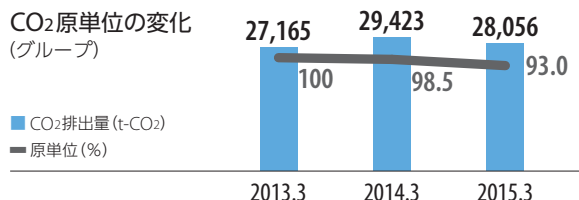
2年間で7%のCO₂削減を達成しました

ウシオではサステナブルな地球環境の実現に向け、2020年にあるべき姿（2020年環境ビジョン）を描き、その実現に向けて取り組んでいます。2013年4月からは、4つの重要テーマからなる第四期環境行動計画をスタートさせており、テーマの一つである「地球温暖化対策」についても、大きな成果をあげることができました。

主要な生産サイトでの削減努力が実を結び、計画の2年目となる2015年3月期のCO₂排出量（売上高原単位）は、2013年3月期と比べて7%の削減となりました。ウシオで

は事業所や物流の間接的なCO₂の把握・分析にも取り組んでおり、今後はこれらの削減にも取り組んでいきます。

CO₂原単位の変化
(グループ)



社会貢献トピックス

科学技術に興味を持つ中高生に最先端の光技術を紹介しました



2015年3月24日、科学を学ぶ中学・高校生を対象に開催される「つくばScience Edge」において、当社の新技術開発部がワークショップを行いました。

参加者全員に、当社のエキシマランプを使って、紫外線によって異質な物質同士を原子レベルで結合させる「光接合」の実験を行ってもらったところ、接合の瞬間には生徒たちから大きな歓声があがりました。生徒たちは、この技術がスマートフォンなどの身近な製品にも活用されていることを知り、最先端の科学技術や、これまで知らなかった光の可能性について、それぞれが興味を持っ

た様子でした。

ウシオでは今後も、光技術に興味・関心を深めてもらう機会の提供を検討していきます。





CSRトピックス

「FTSE4Good Index」銘柄に選定されました

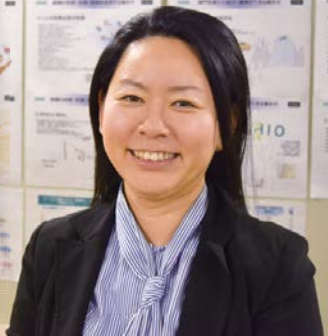
環境保全に向けた活動や人権などの取り組みが評価され、12年連続で「FTSE4Good Global Index」に選定されました。

「FTSE4Good Global Index」は英国のFTSEグループが作成管理するグローバルな社会的責任投資指数です。財務分析による投資基準に加え、「倫理・社会・環境・安全な

どに配慮した事業活動を行い、企業に求められる社会的責任を果たしているか」を投資判断材料とする社会的責任投資の代表的な指標とされています。現在、世界25カ国803社が選定されており、そのうち、日本企業は176社が選ばれています。(2015年7月31日現在)

ウシオの
“ヒト”

Action2020 メンバー
田代 文子

「より良いウシオ電機」は
社員間コミュニケーションの向上から

Action2020とは、性別や年齢、職務などが異なる社員が組織横断的に集まり、メンバー自ら職場風土の醸成や職場の風通しを良くしていくための施策を企画・運営するプロジェクトチームです。中でも、職場のコミュニケーション向上を目指し取り組んでいるのが、2014年9月か

ら開催している「一話がつながり ウシオがつながるーワールドカフェをしよう」というものです。これは、ワールドカフェ※という手法を使って参加者同士が知識やアイデア、気づきを共有し、ゆくゆくは新しいアイデアやイノベーションを生み出すきっかけにしてほしい、とはじめたもので、これまでに500名以上の社員が参加しています。

Action2020が行う活動の特長は、社員が自主的に参加できる機会を増やしていることです。これにより、徐々にチャレンジをしたり、積極的に行動を起こす社員が増えてきたように思います。組織を成功へと導くには、まず「関係」の質の向上から。そこから「思考」の質、「行動」の質へとつなげ、ひいては結果がきちんと出せる「成果」の質を高めていく活動にしていきたいと思っています。

※ワールドカフェとは

「あるテーマに対して垣根のない話し合いの場をつくり、お互いの想いや考えの背景について探求し、相互理解を深める」対話の手法。2015年9月期は「感謝の伝え方」をテーマに話し合いをしました。

株主さまとともに

当社のWebサイトでは、最新の決算情報やアニュアルレポートなどのIR情報、サステナビリティレポートなどのCSR情報をはじめとする、さまざまな情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

<http://www.ushio.co.jp/>

◆株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行済株式総数 139,628,721株

株主 12,602名

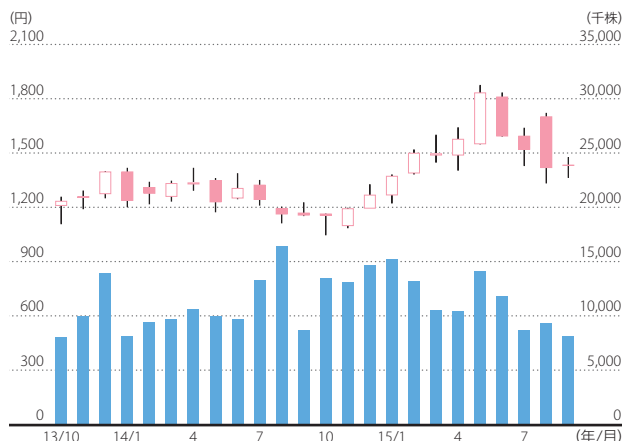
■大株主の状況 (200万株以上)

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	9,113	6.52%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	5,437	3.89%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.06%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04%
ジェーピー モルガン チェース バンク 385174	3,905	2.79%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,889	2.78%
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT – CLIENT ACCOUNT	3,674	2.63%
株式会社りそな銀行	3,616	2.58%
朝日生命保険相互会社	3,305	2.36%
牛尾 治朗	3,226	2.31%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	2,855	2.04%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	2,772	1.98%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,678	1.91%
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リューエス スタックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	2,487	1.78%
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	2,260	1.61%

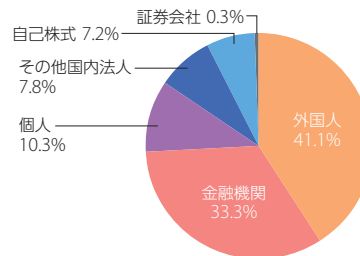
※上記のほか、当社が所有している自己株式9,960千株があります。

※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

■株価の動き / 株式売買高



■株式の分布状況



◆ 株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人
及び特別口座管理
機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

〈郵便物送付先〉 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈電話照会先〉 **0120-782-031** (フリーダイヤル)

各種手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
<ul style="list-style-type: none"> 住所・氏名等の変更 単元未満株式の買取請求 配当金の受取方法の指定 相続 	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
<ul style="list-style-type: none"> 一般口座への振替 	—	
<ul style="list-style-type: none"> 支払期間経過後の配当金 		三井住友信託銀行

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行います。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

◆ 会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2015年9月30日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	浜島 健爾
取締役	徳廣 慶三
取締役	牛尾 志朗
取締役	伴野 裕明
取締役	田中 米太
取締役	小林 敦之
取締役相談役	菅田 史朗
取締役(社外)	中前 忠
取締役(社外)	原 良也
取締役(社外)	金丸 恭文
常勤監査役	多木 正
常勤監査役	大島 誠司
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	米田 正典
監査役(社外)	野崎清二郎

従業員数 (2015年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,749名
国内グループ計	853名
海外グループ計	3,162名
合計	5,764名

グループ会社 (2015年9月30日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社	
株式会社ジーベックス	
日本電子技術株式会社	
株式会社アドテックエンジニアリング	
株式会社プロトセラ	
ウシオオプトセミコンダクター株式会社	他6社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht- und Vakuumtechnik GmbH
- NATRIUM Sp. zo.o.

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.

他25社



PRISM (プリズム) は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するウシオの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。

発行：ウシオ電機株式会社
コーポレートコミュニケーション部

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1
TEL: 03-3242-1836 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキを使用しています。